

2学年通信

Dreams come true

山形県立米沢興譲館高等学校

2学年 第22号 通算86号

2016.6.2(木)発行

置賜地区総体を終えて vol.2

文責 横山



ある保護者の方から「山寺の強烈な衝撃は何でしたの？」というお話を頂きました。日頃よりご愛読ありがとうございます。そう私は地区総体の翌朝、息子の母親から「山寺に行きましょう」と誘われて愛車ビートで国道13号を北上しました。このように書くと「先生は奥さん孝行ね」と誤解されるのですが、それは息子が大学に行ったことと無関係ではありません。現在、我が家では私達と高校2年生の息子と3人で暮らしています。その息子もあと2年後には、ほぼ間違いなく家を出て、その後は妻と2人の暮らしが始まります。それはリアルな近未来の現実なのです。私にとってはAIやIot以上に切実な問題です。あまり書くと怒られそうなので止めますが、この心中は2年生保護者の皆様にはご理解ご同意頂けるのでしょうか。生徒諸君が進学するという事は、家族にとって金銭的な問題以外にも大きな変化があるのです。長々と書きましたが、山寺に行く理由の1つがそんなこともあるのです。さて、山寺を訪れるのは息子が小学生のとき(か、あるいはもっと幼少期か)以来です。駐車場の車のナンバーを見て、また石段ですれ違う人達の会話を聞いて「関西の人が多いな」と実感します。また最近「歴女」と言いますか、確かに若い女性のグループが目立ちます。「SDK3」と呼ばれる2学年男性教師3人組に教えるべき貴重な情報です？さて、山寺の石段は1015段です。このようなとき、私はいつも思います。「なぜ昇るの？」と。私は少し変なところがあって(少しでないか)幼い頃から様々なことに疑問を持つ子供でした。体育で「なぜ走るの？」から始まり「自分は何者？」「生きるって何？」まで。そんなことを一々聞くので、友達や大人から鬱陶しいと思われていたと思うのです。でも、小学校高学年のとき「複数の人と結婚してもいいのですか？」という質問に、「インドやアラブの国ならいいのよ。将来住んだらイイ」と、正面から受け止めてくれた担任のY田先生には感謝している。「いろんなことに疑問を持つことは良いこと」と私を褒めてくれたから。以来、今日までその言葉を糧として生きてきたような気がする。さて戻るけど山寺の石段の途中、松尾芭蕉について書かれた看板があり【46歳の松尾芭蕉は、弟子の曾良を伴として江戸の深川を出発し、陸奥、出羽、北陸の各地をまわる旅に出ました。本寺(立石寺)にて句を詠み、最後は美濃の大垣に到着。この156日間、600里余に及ぶ長旅の中で、特に印象に残った出来事をまとめたのが、紀行文「奥の細道」です】と。芭蕉は600里を歩いたのです。「母を訪ねて3000里」のマルコには遠く及ばないものの2400kmを歩いたのです。そのとき「なぜ？」や「どうして？」という疑問もいけれど「とりあえずやってみることも必要ではないかと。やってみることで得られることもあるかと。上杉鷹山の「為せば成る」はそういうことね！と50歳にして辿り着いた衝撃の結論でした。終マッス？

<あとがき>

「そんな話では納得できない」という声もあるかと思いますが。ある生徒は、左の写真を見て「山寺に出没する野生化した女子高生！」と言いました。いいえ違います。この写真は「清掃ボランティアをする野生化した理数科女子」です。でも彼女にしても、おそらく主たる理由も無く「林に入りたかったから」そうしただけだと思う。子供の頃は何でも「したいからした」はず。でも、少し人生を重ねて、善悪は別として「したいからする」ことを躊躇するようになる。為す前に意義や理由を欲しがらなくなる。さらには、為さないことを論理で武装するようになる。正に私がそうだ。山寺で感じたことはそういうことなのです。

もしかすると、生徒諸君にも思い当たる人がいるかもしれない。学びのこと、部活動のこと、家族のこと etc. 躊躇していないだろうか。私は、何事にも疑問を持つことはイイ、というより疑問は持つべきだと思う。と同時に、自他の結論を待たずに「とりあえずやってみることを」薦めたい。昨年講演頂いた村上龍男前館長のブログに、ノーベル賞を受賞された下村脩先生の話がある。

「子供は構うな。自然の中で自由に遊ばせておけ。そうすることで色々なことに興味をもつ人間になる。その方が何でも出来る優等生よりも将来性がある。それが自分だ」

「社会に出て力を発揮するのは頭がいいとか、いい大学を出たとかじゃないぞ。能力というものは積み重ねて計るものじゃない掛け算で計算するものだ。

【失敗を恐れて余計なことはするな。黙っている。言われたことばかり取り組む】

こう言った考えはマイナスかゼロだ。そんな人はろくな仕事が出来ないだろう」

昨年読んだとき、よくわからなかったけれど今は少しだけ理解できるような気がする。子供は無限の可能性を持っている。それは親も計り知れないほどの可能性だと思う。生徒諸君もまだまだ子供だ。それは「子供だからできない」ではなく「子供だからこそできる」と思ってほしい。物心の損得に振り廻されずに、自分の信念にのみ従い、やりたいことをやってみる。これは、子供であるが故の、つまりは「若さの特権」なのです。諸君には大いに挑戦してほしい。そして、ドンドン失敗してほしい。その失敗は、アナタの人生の大きな財産になるはず。チャレンジを決意する6月！

<結びに>

最近の月号は、生徒諸君の趣味特技や教育実習生諸君の自己紹介など、編集に関わることばかりで自己主張ができず？ちょっとフラストレーションが溜まっていたかもしれない。今年度4月から2カ月の間にも、世界では様々な出来事が起きて日々変化している。個人的は「オバマ大統領の広島訪問」が大きなニュース。原爆を落とした当事国の大統領が広島を訪れること、これは大きな決断だったと思う。就任以来、オバマ氏の「世界平和を求めろ」という政治姿勢は素晴らしかったと思う。アメリカは軍産複合体など複雑な国内事情もあり、軍隊や戦争を簡単に否定できない国である。しかし、人種を超えオバマ氏のような大統領を生むという点において懐の深い国であると思う。平和を求めろ、それは当たり前では無く、時の為政者によって簡単に踏みにじられることがあると諸君には知って欲しい。今、学びに専念できる環境にあることを先人に感謝しよう。